



ショートコメント

★★★

Data 2024-34

監督・脚本：カルロス・ベルムト

出演：ナチョ・サンチェス／
ゾーイ・ステイン／ア
ルバロ・サンス・ロド
リゲス／アイツィベ
ル・ガルメンディア

マンティコア - 怪物 -

2024年／スペイン・エストニア映画
配給：ピターズ・エンド／116分

2024（令和6）年4月29日鑑賞

テアトル梅田

👁️👁️ みどころ

『マジカル・ガール』（14年）も難解だった（ワケがわからなかった？）が、スペインの“鬼才”が脚本を書き、監督した本作もチョー難解！

人間の心の中に潜む“マンティコア＝怪物”に注目した（？）のは面白いが、メインストーリーたる恋物語の中で展開する倒錯的なストーリーは、私にはイマイチ。

その上、本作後半に見るあっと驚く展開の数々は、私には理解不能に近い。はっきり言って、これは降参！

—— * —— * —— * —— * —— * —— * —— * —— * —— * ——

◆本作の脚本を書き、監督したのは『マジカル・ガール』（14年）（『シネマ38』未掲載）で、サン・セバスチャン国際映画祭のグランプリと監督賞をダブル受賞する快挙を成し遂げたスペインの鬼才カルロス・ベルムト。もっとも、そんな“鬼才”の作品は難解なものが多いのが常で、2016年4月3日に鑑賞した『マジカル・ガール』は、私にはほとんど訳がわからなかったから、ショートコメントで星3つだった。

しかして、チラシに「この結末は愛か、悲劇か？」、「欲望は目覚める」と謳われている本作は？

◆パンフレットには「マンティコア」について次の通り書かれている。すなわち

西ヨーロッパの中世美術にも広く普及した、エジプトのスフィンクスに似たペルシアの神話上の生き物。人間のような頭、ライオンまたは虎のような胴、ヤマアラシの羽に似た有毒な棘の尾もしくはサソリの尾を持つ怪物で、人喰い（マンイーター）と伝えられる。



なるほど、そう聞くと、私もこれまでに見たことがあるような、ないような・・・？もし見たことがあるとすれば、それは映画かもしくは（怪奇）小説だろうが、見たことがな

いのに知っているとするれば、それはひょっとして私の心の中に「マンティコア」が潜んでいるため・・・？

◆それはともかく、本作の主人公フリアン（ナチョ・サンチェス）の職業はゲームデザイナー。したがって、日々パソコンに向かって「マンティコア＝怪物」の絵を描き、戦いのストーリーを練り、勝者と敗者を分ける面白いゲームを制作するのが彼の日常だ。そんなフリアンにとって、パソコン上の世界はあくまで架空のもの＝作り物のはずだが、一人で部屋にこもって徹夜でそんな仕事を続けていると、時にはどちらが現実でどちらが架空の世界かわからなくなってしまうことも・・・。

◆本作冒頭に見る、アパートの向かいの部屋での火事とそこに一人でいた子供クリスチャン（アルバロ・サンス・ロドリゲス）の救出劇は、一見、日常生活のちょっとしたハプニングだが、カルロス・ベルムト監督によるとそれはフリアンが心の中に抱えていた「マンティコア＝怪物」を覚醒させるきっかけになったようだ。なるほど、なるほど・・・。

◆他方、同僚の女性サンドラ（アイツィベル・ガルメンディア）の誕生パーティーで知り合った、美術史を学ぶ聡明でどこかミステリアスな女性ディアナ（ゾーイ・ステイン）との出会いから始まるストーリーは、一見“ロミオとジュリエット”風の恋物語と同じだが、本作ではどこか歪で倒錯的なニュアンスが含まれているところがミソだ。

互いに惹かれ合っていく二人が自然にベッドインするストーリーもごく自然だが、“行為”の最中にフリアンが「ごめん」と謝ったのは一体なぜ？それは肝心な時にフリアンの男性機能がダメになってしまったためだが、問題はなぜあんなに若くて元気なフリアンがそんなことになってしまったのかということだ。その原因は一体ナニ？

◆本作は、後半から意外なストーリーが続出していくので、それに注目！その第1は工作上的トラブルだが、その程度のことはある意味で想定内だ。それに対して、あっと驚く展開は、フリアンが描いていた少年クリスチャンの絵を見たディアナからいきなり“縁切り宣言”をされたこと、これは一体なぜ？さらにあっと驚くのは、それによって大ショックを受けたフリアンのその後の行動だ。今や火事のあったあのクリスチャンの住むアパートを引越していたフリアンが、わざわざクリスチャンの家を訪れて部屋の中に入り込んだ上、何やら怪しげな行動を次々と……。これは一体何？しかも、その挙句にフリアンは一人でベランダから飛び降りてしまったから、これも一体何？

本作のチラシには、「傑作」、「残酷」、「人間の心の闇を抉り出す」と記載され、いずれも星5つが付けられているが、私の目にはアレレ、アレレの連続で納得感はいマイチだ。

2024（令和6）年5月2日記